

令和2年5月21日

秋葉区自治協議会委員各位

秋葉区自治協議会事務局

新型コロナウイルス感染症の影響に関する緊急アンケートの結果について

4月に実施いたしました標記アンケートについて、委員の皆様より提出していただきましたご意見をお送りいたします。今後、本会議において意見交換の場を設定いたしますので、ご一読くださいますようお願いいたします。

また、先日開催しました運営会議において、アンケートでの意見にもとづき、新型コロナウイルス感染症の影響による生活様式の変化など区民の声を聴くため、意見箱を設置したらどうかと提案がありました。意見箱に集まった声は、区自治協議会の活動の参考にするとともに、行政へも届けたいと思います。

また、意見箱の設置と併せて、区やアキハスムホームページ等への掲載も検討しています。

つきましては、コミュニティセンターなどの施設に意見箱を設置することについて、皆様のご意見を別紙回答書によりお聞かせくださいますようお願いいたします。

事務局：新潟市秋葉区役所 地域総務課

企画・地域振興グループ 友坂・神田橋

電話：25-5672 FAX：22-0228

電子メールアドレス：chiikisomu.a@city.niigata.lg.jp

秋葉区自治協議会事務局（秋葉区地域総務課）行

FAX：0250-22-0228 電子メール：chiikisomu.a@city.niigata.lg.jp

回答期限：令和2年5月29日（金）まで

意見箱の設置について（回答）

委員氏名 _____

1 意見箱の設置について

（どちらかにしてください。）

賛成

反対

理由を記入してください。

2 ホームページ等への掲載について

賛成

反対

理由を記入してください。

3 1で賛成の方にお聞きします。意見箱と一緒に設置するアンケート用紙に設けたら良いと思う質問にしてください。

- 性別
- 年代
- 困ったこと、困っていることはありますか。
- どんな情報を必要としていますか。（例：予防方法、自宅でできる運動 など）
- 自由記載欄

上記のほか、質問したいことがありましたら記入してください。

新型コロナウイルス感染症の影響に関する緊急アンケート結果

Q1. あなた（または、あなたが所属している組織）は、新型コロナウイルス感染症の拡大が秋葉区民の生活に及ぼす影響について、どのような問題や不安があると考えていますか？

<短期的>

- 勤務先は公共性が高い仕事なので、コロナによる製造中止等はありませんが、材料や部品の調達が困難になるリスクがあります。
- 秋葉区に限らず全国の高齢者たちが、活動範囲はほぼ自宅のみという生活を余儀なくされている。自身のことを言えば、ここ数年、地域の方々と「集まる・会話する・大きな声で歌う」という活動が自分にできる社会貢献と考え、生き甲斐にしてきた。しかし、その全ての行為が一番危険なことになってしまった。また、社会になるべく迷惑をかけないようにと取り組んでいたジムでのトレーニングもダメとくる。この先どうなっていくのか、不安しかない。とりあえず、食べることと眠ることが中心の生活。食品調達のために、近所のスーパーに行くわけだが、そこに感染が出たらどうすればいいのかと不安は尽きない。
- 自分自身への感染の不安、効果的な治療がないこと
- マスクや消毒液の品薄、品切れ、在庫状況
- 外出、移動の自粛。子どもの学校臨時休校で子どもの居場所の確保
- 所属組織では、感染症推移を見ながらの計画事業開催・中止の判断に悩む。その検討会議の開催にも気を遣う。
- 介護者が感染した場合の被介護者へのサービス維持
- デイサービスの休業による利用者の体調不良
- 感染に関連した偏見・差別やいじめの心配
- 家庭内感染防止の「軽症者」の隔離施設等の有無
- 地域活動の停滞。長期に渡る自粛要請により委縮現象がある。
- 身近な人が感染しないか。いつまで、どのくらい広がるか。仕事を解雇され、生活困窮者が出ないか。
- 各種行事の計画が立てられない。(学校との行事 ほか)
- 自分が感染するという不安以上に、知らないうちに感染源になりはしないかという原罪感が湧き、人と会うことが罪なのではないかという考えが蔓延る。
- これまで盛んだった文化やスポーツ活動の場や機会が制限され、活動の継続が困難になってきている。
- 不安をあおるデータの示し方や内容の報道が多く、正しい行動を判断するために妨げになっているように感じる。
- 緊急事態宣言による影響は大きく経済活動の低迷が不安である。すでに営業自粛や閉店を余儀なくされている商店や事業所も少なくなり、問題である。
- 秋葉区でも感染者が出ていることから、各組織がどこまで活動を自粛すべきなの

か模索しているように見受けられる。特に、小さな団体は、人からの口コミで自粛の程度を判断している面があるように見受けられる。

●感染拡大防止のため休校になり、3月からは朝からの仕事となった。(児童クラブ)職員は披露し、特別な事務作業が増え、残業となった。

●消毒・マスクの不足、又ハンドソープやペーパーも購入できなかった。

●秋葉区の感染者が新潟市内初であったため、風評被害があった。秋葉区から来たと言うと、「コロナの・・・」と言われることが多かった。

●合唱や朗読活動は、感染リスクの高くなる「三密」の全ての条件に該当するだけに、発表の機会はもちろん、日常の練習そのものが出来なくなっている。

●福祉施設においては、歌、楽器、朗読等のボランティアの受け入れにより、日常の生活プログラムが編成されており、これらのボランティア活動の休止が、施設利用者のストレス発生の一因につながっていくことが考えられる。

●全ての活動の自粛が求められる中で、人と人のつながりが希薄になってきています。特に、高齢者は孤立しやすく問題だと思えます。

●生活支援について=現在、「支え合いのしくみづくり」の必要性について、コミ協・自治町内会長等にご理解いただき、推進を図っていますが、自粛要請に伴い、滞っているのが現状である。

●介護予防について=高齢者が集う茶の間やサークル活動等も開催自粛により、交流の場が減り、気力・体力の低下が懸念される。

●社会活動が制約されることによるストレスの増大

●運動不足からくる健康被害

●個人商店の閉店

●社会的弱者の生活困窮～シングルペアレント～

●運動不足による健康状態の悪化

●差別的扱いによる個人及び家族への影響

●学習内容の不足、未履修の問題

●わずかの油断で感染爆発の恐れが区内にもある。

●飲食店をはじめとして商店、個人企業、中小零細企業に廃業の危機があり、従業員にも失職の恐れがさし迫っている。→地域衰退につながる。

●上記の危機を阻止するために、地域と業者の協働と行政の緊急の対応・措置が必要。

●子ども食堂「秋葉かけはし」は6月まで中止となった。困っている方に手を差し伸べたいと思っている。コロナが落ち着いたら、再開もしくは、やり方を工夫(弁当・食材提供)していきたい。

●運動サークル、趣味のサークルが全て中止となり、今後の見通しが立たず不安。

●休校、休園によって、子どもが家にいなければいけないことによるストレス。

●所属する新潟シティガイド、新津観光ボランティアでは、何本かの町あるき企画を、当分の間、中止した。毎年の公民館主催の町の歴史講座は先送りとなった。楽しみにして、お待ちいただいている区民も多いのですが、直接の生活への影響はな

いと思われる。

●外出自粛等で抑えられていると思うが、どこまで続けられるか。高校生が不安材料だったが、休校となり良かったと思う。連休が明けても、7～8月までは我慢の期間と考える。その後は、状況をみて対応すべきと思う。

<長期的>

●勤務先は日本国内の鉄道車両だけでなく、世界各国の鉄道車両の製造に関わっているため、経済の低迷により、鉄道車両の製造計画や改造の計画変更が予想され、関連企業を含めた経営収支の悪化による社員の収入低下に陥る不安がある。

●医療機関、高齢者介護施設の体制

●景気の悪化

●不安やストレスの蓄積

●完全なる終息宣言とならない限り、区域内住民には各種事業（多くの方が集う内容）への参加に影響するのではないかと懸念を覚える。この考えは、自治協提案事業に当てはまるのでは。

●花卉生産者・個人事業主等の事業継続

●外出自粛の長期化に伴うストレスの蓄積（特に、子ども、DV）

●介護事業者の休止等に伴う一人暮らし高齢者の健康と命

●児童生徒の学習の成立、教育課程の達成

●進級・進学

●感染拡大期において自然災害が発生した場合の対応方法

●中小企業や商店の衰退による雇用の維持（失業率UP）

●高齢者の健康不安増→その対応は急務である。

●次の冬に、また感染拡大するか不安。

●経済がどこまでもどるか。

●中小や個人の起業が経営不振に陥り、新型コロナウイルス感染が収束した後、元の生活に戻れるか心配。

●演劇や合唱など、いったん消失したら復活が困難や団体や組織をどうやって守り抜くか。

●政府系のセイフティネットに期待して、事業を継続する事を柱に各商店は生き残りをかけ、テイクアウトの他アイデアを出して困惑しているのが現状である。早い終息を祈るばかりである。

●新潟薬科大学の授業で新津商工会議所とお仕事をご一緒させていただいているが、商店街の方々が資金繰りに苦勞をされており、相談が絶えないとの旨、お聞きしている。

●テレワーク・在宅勤務ができる職種はわずかで、ほとんどの人が自宅で過ごす休みとなっている。また、流通・病院・福祉・役所関係は激務となり、厳しい勤務状況。

- 街は人が出なくなり、商店街は閑散としている。
- 子ども達が休校のため家で過ごし、インターネットに1日中没頭している。やる気が消失するように感じる。昼食はインスタントや冷凍が多く、栄養面も心配。
- 感染収束の見込みが困難になると、それぞれの団体がこれまで蓄積してきた技術力や運営ノウハウ等の活用に中断が生じ、極端に言えば、秋葉区の文化水準の低下にもつながることを危惧する。
- 「地域の茶の間」等、軌道に乗っていた活動が果たして再開できるのか。再開できた時に、安心して多くの人たちが集える場が持てるのか。
- 新型コロナウイルスが存在する現実と、どう向き合っていくのか。
- 自粛要請が長期化すると、介護予防の環境が損なわれ、孤立してしまう人や日常生活に支障をきたす高齢者が増え、生活支援を必要とする人が増加すると考えられる。しかし、「支え合いのしくみづくり」が停滞することにより、地域で高齢者を支えることが難しく、日常困る高齢者が増加すると考える。
- 経済の停滞
- ウェブコミュニティ拡大に伴うリアルな人間関係の希薄化
- 必要な物資、価値ある商品の消失
- 未履修のままの進級、資格取得不可の可能性
- 休校による学校行事の縮小。それにより地域の学びや地域住民との関りが薄れる。
- 国、政府の対応が極めて不十分で遅いため、窮地に陥っている商店・企業が当面数か月間生き延び、あるいはコロナ危機収束後に回復するための中期的かつ十分な資金が容易に借りられない恐れあり。
- コロナ収束後に、飲食店が区内に無くなる恐れ。
- 商店、中小企業の倒産
- 感染への不安で、病院やかかりつけの医院の受診が減り、病気の悪化につながる。
- 子どもの健全な成長への悪影響。
- 休校、休園によって、集団生活で学ぶことができない。
- 私の属する団体の活動内容は短・中期的にも直接、生活に密着するものではないため、その影響はない。
- 全国的な動向を専門的な方々の考えに従い、行動をとっていくべきと考える。ただし、自粛について限度があると思うので、小人数（10～15人程度）の会議等は対策を講じたうえで、実施してもよいのでは。（例えば、検温チェックなど課したうえで）

Q2. あなた（または、あなたが所属している組織）の周辺で、感染症拡大の問題や不安の解消・緩和のために取り組まれていることがあれば教えてください。

●事務部署では出勤率 30%以下を目指し、テレワークやオフピーク出勤、会議やイベント等の中止、来社者の記録、出張を控える棟の取組みを行っていると共に、製造現場では昼食時間を変えて、同時に多くの社員が食事をしないようにしている。

●コミセンは閉館になっているので、会議も何もできない。取組みは何もないとのこと。こんな時こそ、できることがあるようにも思うのだが。コミュニティセンターが地域の方々と細々でもつながっているという実感を持ってもらえたら、少しは安心していただけるかなと思う。若い世代はオンラインで情報収集を簡単に得られるが、高齢者にはテレビのみが情報源となり、気分が落ちていくのが目にみえる。ラジオの役割も大きい、地域の役割も大きいと思う。

●手洗いやアルコール消毒、咳エチケット、マスクの着用、うがい、社会的の確保
●換気が悪く、人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることの自粛。例：自治・町内会では、総会など必要な会議内容は書面による承認とする。観音様祭りの縮小。

●子ども達の通学の安全、通学路の安全点検活動（今年から広報用拡声器搭載実施計画）を、学校休校から活動を控えているところですが、緊急事態宣言延長から、「手洗い・うがいなどの生活対応励行」などを中心としたコメントを広報したらどうかと意見交換をしているところである。

●玄関への消毒用アルコールの設置

●外出・訪問の自粛

●特に把握はしていない。ただし、外出時のマスク着用もせずにスーパーで買い物している人を見かける。店側は、マスク未着用者入店拒否できないか。

●特別な取組みはない。国・県・市の指示に従う。

●コミ協総会は、人員を少なくし、大ホールにて実施する。

●新型コロナウイルス渦が収束したあとに、子育て中の親子が心から楽しめるよう、今年はその地固めととらえ、母親を対象に子育てや地域・環境に関する講座を開催する計画である。

●中小零細企業のテレワークは皆無に等しく、各事業を営むしかなく、一般的なマスク、手洗いの励行、人混みは避け、時間帯を考えて、買い物や金融機関などに行くようにしている。

●新潟薬科大学では、5月から遠隔授業を開始する予定になっている。事前に、学生に授業動画を配信し、時間割の時間に学生が自宅から教員に質問をすることができる仕組みづくりを行った。突然の遠隔授業となったので、通信環境に不慣れた学生には教員が電話をかけて相談にのっている。

●所属組織では、換気のため1日中窓を開けている。向かい合って食事を摂らず、1方向を向いて、食事・おやつを摂る。消毒・清掃を時間毎に行っている。マスクを全員着用している、職員・利用児童は、朝晩の検温を行っている。家族及び本人の健康状態が良好でないと出社または登所しないことと決めている。

- 個人的には外出を出来る限り控えて、マスク着用し、友人とも直接会うことを避けている。
- 所属組織では、今年度の総会を中止し、感染症拡大をなんとか食い止める努力をしている。
- 個人的には外出を出来る限り控えて、マスク着用し、友人とも直接会うことを避けている。
- 所属組織では、今年度の総会を中止し、感染症拡大をなんとか食い止める努力をしている。
- 感染拡大防止のため、会議を取りやめている。また、地域に出ることも自粛している。
- 地域づくり情報サイト「やぶへびひろば」(NPO 法人まちづくり学校)
- おひとりさまブラニイガタ (〃)
- オンライン瞑想会 (越佐 hoi サンガ)
- 散歩、たまにカフェ、手芸、読書、オンライン飲み会、お茶会、ママ会
- 外出の自粛
- 町内会の総会延期、花壇整備等の行事中止。
- 地域の「お茶の間」の休止→お年寄りの楽しみがなくなり、見守りが出来なくなった。
- 診療所では、医師・看護師・職員の感染の恐れに恐々としている。
- スポーツ・趣味サークル・団体の行事・活動が中止を余儀なくされている。
- 地域の茶の間では、週1回の食事や交流が出来なくなった。そこで、訪問をして、お弁当を届け、要望を聞く活動をしている。
- できるだけ人は集まる会議をなくす。書面のみ配布。質問等あれば、電話や記述してもらい、集約する。どうしても集まる場合は、短時間・小人数・人との距離をあける、窓は全開など工夫する。
- ZOOM (Web 会議ツール) など、オンラインでの会議にする。
- 所属団体では、期の初めに年間活動スケジュールを組みます。予定を公表してあるものは中止を、6月以降の企画は未発表のため、様子を見ながら決定することとして、実行の可否は先送った。新潟シティガイドの総会は、承認事項を書類送付、返信による決裁とし、集会を避けた。
- いつ、どこで発症しても仕方がない現状なので、自己責任で行動するしかないと思う。
- モデルハウス参加者には、本人もしくは家族に不定期に状況確認をしている。スタッフに関しても、モチベーションが下がらないように、休校による家事の負担、孫の世話などにも精神的な部分に支え合いをつなげている。自粛解除した場合、入退の検温を課していく予定。

Q3. 今後、感染症拡大の問題や不安の解消・緩和のために、自治協としてどのような取り組みがなされるとよいと思いますか？

<短期的>

- 早期感染緩和のため、人と人との接触を少なくするための不要不急の外出やパチンコ店等の休業要請を強制的に行う必要があるかと思う。まだまだ、町中では多くの人たちが集まる姿が見られる。
- 自治体がやるべきことなのではないかなと思いつつ、正しい情報を発信する。これからどうなっていくのか、わかることを（時間を刻んで）発信。少しでも先に希望を見出すために。
- 新潟日報社説に「感染者が増加から減少に転ずるような傾向はうかがえない。命と健康を守るために、一人一人が節度ある行動を粘り強く継続する必要がある。」と書いてあった。感染拡大に歯止めをかける取り組みが始まっており、自治協の活動を自粛せざるを得ない。
- 自治協との取り組みは私的には想定されない、考えられない。国・県・市が示す対応策以上には自治協では何も出来得ないと考えるから。
- 区内各避難所にコロナ災害時の備品（マスク、消毒液 等）・備蓄体制を整える。
- 5月自治協議会の中止
- 行政の意向に従う。
- 個人個人が正しい判断ができるよう、三密のように最新のデータ解析に基づいた感染防止法を知らせることができないか。
- 今の区民の一番の不安は、マスク・消毒アルコール不足に対応できるように情報を集めることが必要ではないかと思う。あと、こんな時だからこそ地元での買い物をお願いしたいと思う。
- 秋葉区の感染症対策に関するホームページを開設し、分散している情報を一つにまとめられると利便性が高いと思う。しかし、常時、様々な最新情報を入手するというのは難しいと思うので、それぞれのリンク先などを知らせる形が良いかと思う。
- 困りごとを募集する。子ども～大人までの区民の声を集め、把握する。
- 買い物によるスーパーなどの混雑緩和のため、野菜セット・魚セット・肉セットなどの予約販売・店頭販売（小売店等）の実施。
- 地域の人たちが、どのような意識でいるのか。それぞれの立場で、どのような問題があるのかを聴くことができたらと思う。
- 今後に向けて自治協として取り組める対策を考える勉強会を開く。
- コロナ対策活動の情報収集と紹介
- ひとりまちあるきコースの設定と発信
- 住民の声を拾い上げて集約する仕組み（例：キラ女子メンバーへ任意アンケート）
- 秋葉区のおすすめスポットと活用法を改めて伝える。（例：動画で散歩コース配信）
- マスクの作成補助

- 子どもの居場所づくり
- 当面の商店・中小零細企業の経営行き詰まり・倒産・廃業を食い止め、従業員の失職を回避するための措置を市に要請する。
- 一方策として、自治協から区・市・商店街・商工会に「商店応援購買券（仮）」の発行を提案してはどうかと考える。自治協として、区民にこのクーポンの購買を呼びかける。
- 秋葉区民の実態を把握する。（保育園・小中高校・大学・勤労者・高齢者 等）
- PCR 検査がスムーズにできるようにする。（ドライブスルー方式など）
- 身近な人・区民の悩みを聞き、寄り添う。その上で、悩みを委員で共有し、解決策などできることがあれば、自治協委員と行政と協力して、取り組む。
- 所属団体では、人が集まる会議・集会は秋以降の繰延べか中止になっている。自治協委員に感染があれば、各委員の持つ他の仕事にも大きな影響あり、区民の注視するところとなる。短期的には、書面收受で可能なものはメール・FAX 等で行い、会議の必要なものに限り行う（集団面談機会を極力避ける。）。最大限のリスク回避が必要と思う。
- 会議時間は短くして開催した方が良くかと。案件について、紙ベースで報告し、行政担当者に煩わしい手間をかけてしまうが、数ヶ月はそのようにして、会議は報告だけで1時間程度を目途に実施すれば良いのでは。

<長期的>

- これからも新たなウイルスが発生する可能性がある。そのために、中国等世界各国の衛生改善に各国の協力し、発生リスク低減と早期ワクチンの開発・研究を更に各機関が一体となって行えるような社会を築く必要があると思う。
- まだまだ終息には年月がかかることと思う。時系列で後世に記録をしっかり残すべきと思う。
- 今年度の行事予定の見直しが必要。もしも、予定行事縮小で予算が余れば、この事態を踏まえて必要性がある分野に優先的に活用する。
- 自治協との取組みは私的には想定されない、考えられない。国・県・市が示す対応策以上には自治協では何も出来得ないと考えるから。
- コミセンの利用を中止していることに伴い、利用料金の大幅な収入減が見込まれる。財源の確保を。
- 行政による的確で早めの指示、回答を。
- かかりつけ医院や病院に感染症対策の医療機器や備品等の拡充対策。終息しても、新型コロナは再発する不安を持っている。
- 行政の意向に従う。
- 地元の企業と連携し、秋葉区民が地元の企業を応援できる具体的な方法を提案できないだろうか。
- 今は、集会・会議が困難であるので、収束後の秋葉区の活性化を区民の皆様から募集したり、各部会少人数で集まり、結果をFMにいつ等で発表したら良いのでは

ないかと思う。

●新型コロナウイルスに関する講演会をオンラインで開催できると良い気がします。専門家には秋葉区にお越しいただくのではなく、オンラインで講演を行っていただくと良いのではないかと思う。

●問題点をピックアップし、1つ1つに対して、誰がどんな支援を行っていただけるかを考える。民間に呼びかけ、早期解決に取り組む。

●自治協として、地域住民の抱える問題の解決に可能な限り取り組めたらと思う。

●きらめきサポートプロジェクトを活用したコミュニティ形成の強化

●IT弱者への教育的サポート

●区民の声を拾い上げるオンライン上の広場の創設

●どんな業務があったら良いかの洗い出し

●街の活性化に向けたイベントへの協力

●市中感染爆発に備え、区内においてPCR検査が受けられるように態勢作りを区(市・県・国)に至急要請する。

●区内において、感染症専門医療機関(一般医療機関から隔離された)の設置を要請する。→感染症専門病床の増床をはかる。

●秋葉区民を元気づける取り組み。Akiha女子では、秋葉区の名所などの動画を撮り、配信している。FMにいつのラジオ番組による情報提供や秋葉区の歴史コーナー、子育て情報番組など、本当に役立っている。

●質問事項からずれがあるかもしれないが、今回のコロナ騒動からみえる仕事の要不要の棚卸しを行い、書面決議で行えるものは書面決議として、会議のための書類作成などの作業を単純化し、高効率の仕組みを考え、職員・委員の仕事の効率化を進めることで、時間や予算、あるいは更に生産性の高い仕事をすための大なたを振るえる機会だと思う。